

令和2年1月24日（金）

大田市立第三中学校

教諭 伊藤 聡子

1. 単元名

Unit 10 あこがれのボストン（*NEW HORIZON English Course Book 1*）

「小学6年生に三中を紹介しよう」

2. 単元目標

- ・ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話す。【外国語表現の能力】
- ・ 聞き手が理解しやすくなるように工夫して話す。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ 助動詞 **can**、疑問詞 **when** の意味や文構造を理解する。【言語や文化についての知識・理解】

3. 単元の評価規準

(1) 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。(ア)	大田三中について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で紹介することができる。(イ)	/	助動詞 can 、疑問詞 when の意味や文構造を理解している。(ウ)

(2) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標との関連

話すこと		書くこと	聞くこと	読むこと
やり取り	発表			
・ 日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、質問に答えたりすることができる。	・ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモを活用しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。	・ 辞書等を使いながら、関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて 25 語程度で書くことができる。	・ はっきり話されている日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。	・ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報や概要を読み取ることができる。

4. 基盤

(1) 教材について

本単元では「咲のボストン旅行記」として、旅先での生活や観光名所を生き生きと紹介している。旅行中に訪れたボストン美術館での日本の浮世絵との出会いや、海外に認められた日本文化の良さを見つめなおす様子が描かれている。言語材料では助動詞 **can** や疑問詞 **when** が扱われている。これらの言語材料を用いた友だちとのやり取りや、自分以外の人・ものについて話す活動など、今まで以上に表現の幅を広げられると考える。このことから、この単元を「話すこと」を中心に指導を行う単元として設定した。

また、日本の文化を「見つめなおす」咲の姿から、生徒が学び舎である大田三中の良さを見つめなおすことに関連付けた指導も行っていきたい。

(2) 生徒について

〈個人情報保護のため省略〉

(3) 指導について

単元ゴールとして「小学6年生に三中を紹介しよう」という活動を設定した。本校は小規模校であるため小学校との関りが深いのが、意外と中学校生活のことを知らない小学生も多い。たくさんの小学6年生に入学してほしいという思いをもっている中学1年生が、中学校を紹介してその魅力を伝えることで、主体的に情報を発信していく力を育成したい。小学校からの学びの継続性をもたせるため、適宜「We Can!」を授業に取り入れ、生徒に学びのつながりを体感させたいと考えている。また、話すことへの意欲は高いが書くことに抵抗がある生徒もいるため、“chat”を活用して話したことを書いたり、書いた内容を読み合ったりしながら、4技能5領域をバランスよく育成していききたい。

授業ではペア学習を中心に取り入れ、最終的に全体で発表する形態をとっている。Unit8の単元ゴール活動では、大田三中の教員を小学生に紹介するビデオを撮影した。個人で考え、ペアで繰り返し練習し、お互いに良い点や改善点を伝え合う活動を行ったことで、自分たちで良い点や改善点に気づき、練習を重ね、より良い内容にすることができた。本単元のゴールとなる活動は、Unit8と似た活動となるため、生徒たちは活動に対してイメージを持ちやすく、取り組みやすいと考える。また、生徒が紹介文で使うであろう表現に教科書で出会わせ、活用できるようにしたい。さらに、週に一度訪問するALTとのチームティーチングの機会をとらえ、発音や表現の指導に生かしたい。

5. 単元の指導計画（全9時間）

時	帯 活 動	○ねらい ・主な学習活動	主な評価規準		
			関・意・態	表現	知識・理解
1	Chat	<p>○本単元の最終ゴールを知る。 「小学6年生に三中を紹介しよう」</p> <p>○「We Can!」を使い、本単元で身につける表現にふれる。</p> <p>・活動を通して”can”を用いた文の構造を思い出す。</p>	can を用いた文とその構造を思い出し、積極的にやり取りしている。(ア)		
2	単語テスト	<p>○教科書の内容から、can / cannot の文構造や意味を理解する。</p> <p>・教科書の内容を理解する。</p> <p>○三中の学校生活について chat する。 “What can you do at school?”</p> <p>・学校でできることやできないことについてやり取りする。</p>		can / cannot や既習の表現を用いて日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、メモを活用しながら話すことができる。(イ)	
3	Chat	<p>○can を用いた疑問文とその答え方の文構造や意味を理解する。</p> <p>○活動を通じて疑問文とその答え方の定着を図る。</p> <p>・BINGO をする。</p>			can を使った疑問文とその答え方を理解している。(ウ)

4 (本時)	単語テスト	<p>○本単元の最終ゴールの内容を確認する。</p> <p>○三中の学校生活について chat する。</p> <p>“What do you like about 3rd JHS?”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JTE と ALT のやり取りを見る。 ・ メモをもとに即興でやり取りをする。 ・ feedback (良い点・改善点・新しい表現を伝える) をもとに、ペアを変えてやり取りを繰り返す。 ・ やり取りの内容を書いたものを発表し、学校紹介のジャンルを整理する。 		<p>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。</p> <p>(イ)</p>	
5	ラボ (文法ドリル)	<p>○本単元の最終ゴールのモデルを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の紹介の様子を見て、イメージをもつ。 ・ ジャンルを決定し思考ツールを使ってメモを作成する。 <p>○教科書の内容から、can を用いた疑問文とその答え方の文構造や意味を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を理解し、基本練習の英文を書く。 			<p>can を使った疑問文とその答え方を理解している。</p> <p>(ウ)</p>
6	Chat	<p>○教科書の内容から、when を用いた疑問文とその答え方の文構造や意味を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を理解する。 <p>○思考ツールのメモを英語にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メモをもとにしたペアでのやり取り後、思考ツールの内容を修正する。 			<p>when を含む既習の疑問詞とその応答の文構造を理解している。</p> <p>(ウ)</p>
7	ラボ (文法ドリル)	<p>○紹介する内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思考ツールをもとに、ペアで紹介する英文を書く。 <p>○紹介する内容を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に紹介して見せ、良い点や改善点を伝え合う。 ・ アドバイスをもとに練習する。 	<p>聞き手が理解しやすくなるように工夫している。</p> <p>(ア)</p>	<p>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。</p> <p>(イ)</p>	

8	単語テスト	○紹介する内容を練習する。 ・ビデオで撮影し、自分たちのやり取りを客観的に評価する。 ・改善点を生かし、練習する。	聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。(ア)		
9	単語テスト	○ビデオで撮影する。 ・練習後、ビデオで撮影する。 ○小学生にカードを書く。 ・ビデオに同封するカードを書く。	聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。(ア)	事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。(イ)	

6. 本時の学習

(1) ねらい

大田三中について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

【外国語表現の能力】

(2) 展開

学習活動	教師の支援		評価規準 (評価方法)
	JTE	ALT	
○あいさつ ○曜日・日付・天候を書く ○単語テスト	・英語を話す雰囲気をつくる。 ・スペルの確認をする。	・英語を話しやすい雰囲気をつくる。 (生徒との関わりを大切にしながら)	
○単元ゴールの確認をする。 ○三中の学校生活について chat する。 “What do you like about 3 rd JHS?” ・JTE と ALT のやり取りを見る。 →マッピングの内容を見て、気づきを発表する。 ・メモをもとに、即興でやり取りをする。 ・授業者と生徒とのやり取りを見て、気づきを発表する。	・ポイントに気づけるよう、やり取りを行う。(※) ・話す内容を整理する時間をとる。 ・生徒を指名し、やり取りをする。	・ポイントに気づきやすいようにデモを行う。 ・気づきを伝える。	・大田三中について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話すこ

<ul style="list-style-type: none"> • feedback をもとに、ペアを変えてやり取りを繰り返す。 • やり取りの内容を発表し、学校紹介のジャンルを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 良い点や改善点、新しい表現を伝え、やり取りできるように支援する。 • 発表内容をジャンル別に板書し、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表現や単語などの支援をする。 	とができる。 (活動の観察)
<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを記入する。 ○あいさつ 			

※ポイント 内容面：理由や感想などを合わせて伝えている。

言語面：既習事項を使って、単語ではなく文で話している。

(3) 本時の具体的な生徒の姿の例と支援

「十分に満足」と判断される生徒の具体例 (A)	「概ね満足」と判断される生徒の具体例 (B)	「支援を必要」とする生徒への指導の手立て (C)
大田三中で好きなこと(もの)とその理由、加えて事実や気持ちを伝えるなど、よりまとまりのある内容で、簡単な語句や文を用いて話している。	大田三中で好きなこと(もの)とその理由を、簡単な語句や文を用いて話している。	表現したい内容を確認しながら単語や文構造をいっしょに考え、少しずつ伝えられるよう支援する。
【A】 I like my classroom. I can talk with my friends. It's very fun. I like the table tennis club, too. I can play table tennis well.	【B】 I like my classroom. I can talk with my friends.	【C】 My classroom. Speak friends. Fun.

(4) 授業研究の視点

ねらいを達成するために、本時の言語活動は適切であったか。